

TRICOLOR

大会・公式戦結果

Top

【県リーグ(KSL-1)】

▼第9節

vs 六浦 FC 0-1●

▼第10節

vs 日本工学院F・マリノス 2-1○

▼第11(最終)節

vs 横浜 GSFC コブラ 1-0○

Youth

【県 CY リーグ】

vs Y.S.C.C. 1-1△

【県 U-18 リーグ】

vs 横浜清風高校 1-2●

vs 横浜緑園総合高校 3-2○

Junior Youth

【横浜市長旗杯区予選】

▼2回戦

vs 六角橋中 0-5●

【2010/2011 県 U-15 リーグ 1st ステージ】

vs 横須賀市立神明中学校中 0-3●

小6

【横浜国際チビッツ】

vs 大曾根 SC 1-0○

vs 横浜中央 YMCA 3-0○

vs 平戸 FC 3-2○

vs もえぎ野 FC 0-1●

※7 チーム中第2位で決勝 T 進出

小4

【横浜国際チビッツ】

☆A チーム

vs たちばな KC 8-0○

vs ブルーキックス SC 1-1△

vs 港南台 SC 5-0○

vs FC オフサイド 1-3●

vs 桜ヶ丘 FC 9-0○

vs FC80 洋光台 1-5●

☆B チーム

vs FC 南台 0-8●

vs J スポーツ 0-5●

vs 上星川 SC-B 6-1○

vs いずみ野 SC 0-6●

vs FC ゴール A 0-12●

vs FC 緑 0-2●

※7 チーム中第6位

小2

【横浜国際チビッツ】

vs 若葉台 FC 2-0○

vs 大門 FC 4-0○

vs 岩崎 FC 3-0○

vs 上星川 SC-A 0-1●

※7 チーム中第3位

Papas

☆Rec

【県シニアリーグ四十雀4部】

vs FC430 1-0○

vs YOKOHAMA TFC 1-1△

☆Comp

【県シニアリーグ四十雀2部】

vs ウィットマスターズ 1-3●

今、グラウンドでは・・・

Top

【県リーグ全日程終了】

県リーグは 10 月に3試合を行い全日程を終了し3勝6敗2分け、12 チーム中8位で全日程を終了しました。

10 月3日六浦 FC との試合は、互角に試合を運ぶものの試合開始直後の失点を跳ね返せず 0-1 で敗れ、かながわクラブはその時点で最下位となりました。しかし後がない 10 月 10 日の工学院 F・マリノス戦では、かながわクラブが試合の主導権を握り、積極的に攻撃を仕掛け 2-1 で勝利。また、リーグ最終戦 10 月 24 日には横浜 GSFC コブラと対戦し、0-0 で折り返した後半早々退場者を出してしまい苦しい展開となったのですが、ベンチを含めた選手全員の集中力とともに相手を上回る運動量で、1-0 で勝利しました。特にその決勝点は、後半 37 分右サイドの真弓からのアーリークロスを、堀田がゴール前で DF に付かれながらもヘディングで決めたゴールで、今シーズンのベストゴールだと思えます。

今シーズンを振り返ると、昨年の3位より順位を落としてしまいました。原因はいろ



いろいろありますが、県リーグ1部の他のチーム力がアップしてきたことがあります。県リーグ1部で残留するとしても、チーム力を上げないと残れないと言うことです。今シーズンの序盤はなかなか田村監督の目指すチーム作りができませんでした。それでも、リーグ後半になって練習の成果が出だして、ようやくかながわクラブらしいサッカーができるようになり、最後の2連勝につながったと思います。

課題は山積みです、特に得点力不足は深刻な問題です。リーグ2位タイの12失点という堅い守りは健在ながら得点は最下位の6得点。今後は田村監督の目指す戦えるチームを目指すとともに、どこからでも誰でも得点できるチームにしていき、チーム力の底上げを図りたいと思います。

今シーズンも Top チームの応援に大勢の方にお越し頂き、ありがとうございました。個人的な感想として、サポーターの皆様が多いほど、選手たちの動きが良かったと思います。今後も Top チームの応援よろしくをお願いいたします。(中本 洋一)

Youth

試合ではボールは一つしかありません。どんなに上手な選手でも、ボールがなければ攻撃をすることができません。ですから、当然ボールを奪うことから始めることになります。

問題は「どうやってボールを奪いに行くのか」「どこでボールを奪うのか」です。ロングボールを蹴ってくるならDFラインの背後のスペースを GK とともにケアすればすみますし、足元につないでくるなら、インターセプトを狙うことになります。時間帯によっては、積極的に高い位置から「ボールを狩りに行く」ことも必要かもしれません。

この時に気を付けなければいけないのは、個の力で奪おうとするあまり、ガツガツ当たりすぎ、ファウルをとられたり、反動で相手選手にターンされて突破されてしまうことです。ユースの選手たちにはよくみられる光景です。

自分の担当するゾーンでは、突破されてしまわないこと
相手にボールを下げさせればよいこと
パスを出させたら次のゾーンでインターセプトができること

といったことを整理して身に付けておきたいものです。

こういった共通理解がチームの中にもっと浸透すると、守備が安定します。守備が安定すると攻撃に落ち着きが出ます。攻撃に落ち着きが出ると多彩な攻め方ができるようになります。結果勝利につながりますし、自信が付き、サッカーがもっと楽しくなります。

選手同士で、このような戦術的なことをどんどん話して行ってほしいと思います。今のメンバーでできる試合は、もうそんなに多くないですし、もっともつとできる能力を持っているのですから。(内田 佳彦)

Junior Youth

2010/2011 シーズンの県 U-15 リーグの全日程が決まり、先日、第1戦目を終えたところです。

3年生が抜け、1・2年生だけで臨む初めての公式戦。ある意味、新たなスタートではあります。ただし、ゼロからのスタートではありません。それぞれに、今まで築き上げてきたことがあるはずだからです。それをベースとして、そこからさらに上積みをしていって欲しいということだと理解してください。チームとしては、来年4月の日本CYという1つの目標に向かって、始動したということです。まだまだ先のことだと思っていると、結局何も変わらないまま4月を迎えることになりかねません。そうならないよう、一人一人がしっかりと「アクション」できるようなチームになっていって欲しいと思います。(二木 昭)

小 6

【国チビ 予選リーグ突破】

L-2-1 リーグで5勝1敗の成績となり、決勝トーナメントへの進出が決まりました。現6年生は5回目のエントリーで、初めての予選突破です。ただ、ここから先はノックアウト方式となるため、相手も勝つためにスタートから全力で向かってくることでしょう。相手が圧力をかけてくるシーンでも決して受身にならず、攻撃でも守備でも相手よりも先にアクションを起こし主導権を相手に渡さないこと、トーナメントではこのようなゲーム運びが大切になってきます。

【決勝トーナメントに向けて】

君たちとまた一緒にチャレンジできるチャンスに恵まれ初戦が待ち遠しい、今はそのような心境です。仲間のため、チームのため、そして何よりも自分のために全力で戦いましょう。もちろん、どんな時でもサッカーを楽しむことを忘れてはいけません。

保護者の皆様、引き続き側面からのサポートをよろしくをお願いいたします。

(鈴木 章弘)

小 5

【寒くなってきました】

港北小での練習でも短パン・半袖ユニフォームを着ていた選手たちもジャージ・ピステ・アンダーシャツを着て練習をする率が高くなってきました。冬になると体調を崩したりする事が多くなるので個人個人でしっかり体調を管理してください。特に練習・試合では汗をかくので身体が冷えてしまうので必ず防寒具・着替えを忘れずに持たせるようにご家庭でもご指導ください。私も近年インフルエンザや重い風邪で毎年寝込んでしまったりが続いているので今年はいち早く気を配りたいと思います。でも、一通りかかったのもうウイルスの免疫が身体の中できているかな?(笑)

【攻守の切り替え】

現在5年生の練習テーマとして「攻守の切り替え」をテーマにあげています。ミニゲーム中心のメニューですが早い判断・早い動き出し・運動量が多く求められ、サッカー選手として必要な要素が沢山含まれています。最後のゲーム形式の練習では、私が小学生の時に平日の二木コーチの時にしていた「通常ルール+半分ルール」が採用されています。半分ルール?と思った方は是非グラウンドまで練習風景を見にきてください。お待ちしております。

【ウイダー飲料のゴミについて】

前回の区リーグでゼリー飲料のゴミが試合会場に落ちていました。今後このようなことがあります①グラウンドを提供しているチームに迷惑がかかる(最悪の場合使用が禁止になってしまう)②かながわクラブ

に悪いイメージがついてしまうことがあります。次回ゴミを発見した場合ゼリー飲料をしばらく禁止にしますので選手のみなさんは自分のごみは自分で処分しましょう。人としてのルールをみんなで守りましょう。

(丸山 祐人)

小 4

【国チビ結果】

B チームは予定の日程通り終了、1勝5敗で7チーム中6位でした。A チームはこの原稿作成時点で最終順位が決まっていますが3勝1分2敗で終了しました。何れにせよサッカーにはぶっつけ本番はありませんので、今まで積み上げてきたものを出した結果が今回の成績、ということになります。

【今後に繋げるために】

今回のチーム分けは子供たち夫々のこれまでの様子を見ながら「意欲・意識(取組姿勢)、理解度、技術」を基準に、今後の成長への期待も含め総合的な判断からA・B チームに分けることをお伝えしてきましたが、改めて今回の判断基準とした点をご案内します。(繰り返しですがあくまでも現時点でのことであり、また、今後成長していく上で今の自分の状況を確認する機会であることも子供たちに伝えていきます。保護者の皆さまにもご理解いただきたいと思えます。)

① 意欲・意識

単純に「サッカーがしたい、上手になりたい」という思いがどの位あるのかを見ってきました。心から「上手になりたい」と思いながら練習している子は、プレーの中で今までより少し多く走ったり、身体を張ったり、丁寧にボールを扱ったり、といった部分に現れてきています。また、挨拶や準備についても見ってきましたが、徐々に変化が見られていることは嬉しく思うものの、まだまだ自分のことと思わない場面も多く見られます。この点は言い続けたいと思えます。

②理解度

基本的な個人戦術と併せて、「プレーの中で自分の役割を理解し次の選択肢を判断できる力をつける」ことを目的に小3の頃からポジションの意識を持つように取り組み、子供たち夫々がどのような判断が

出来るようになるかを見てきました。自分がボールを取られた後取り返しに行かず自チームがピンチになる、という基本的なことを忘れてしまうことがある子もいれば、自分が確実に素早く出来る形を見つけ出しかけている子もいます。何れにせよ、コントロールできないスピードでドリブルをしたり、一度決めたプレーを変更できない等々全体的にはまだまだです。技術的な点とも併せて継続して取組めます。

③技術

実は今回のチーム分けではあえてあまり拘りませんでした。しかし、上手になりたい意識のある子はボールの止め方、蹴り方、運び方に工夫が見られるようになってきており、間違いなく向上していることがわかります。もちろん意識は持っていてもなかなか表現できない子もいますので、慌てず繰り返し取組んでいきます。

【これから】

国チビは終わりましたが、まだまだ子供たちのサッカーは続きます。今回の結果から子供たち夫々も思うところがあるかと思えますので、今後もその部分も酌みながら「クリエイティブで逞しい選手」を目指して取り組んで行きたいと考えています。最後になりましたが、応援にお越しいただいた保護者の皆様、ありがとうございました。今回残念ながらご覧になれなかった皆様も次の機会には是非とも子供たちが頑張っている姿を見てあげてください。子供たちはとても心強く感じますし、保護者の皆さまも子供たちの普段見られない一面を感じることが出来ると思っています。担当からの心からの切なるお願いです。

(小野 津春)

小 3

【区リーグでステップアップを！】

最近試合という区リーグが中心になります。せっかくの試合の機会ですから、きちんと課題を持って臨んでほしいと思えます。そこで最近の練習の中では以下のようなことを重点的に行っています。

【敢えて難しいことはしない！】

子どもたちはときに、弾んでいるボールを無理な体勢で蹴ったり、空中にあるボー

ルに対して足を高く上げてダイレクトプレーしようとしたりすることがあります。もちろんその多くがうまくいくはずがありません。そもそも地球上では重力が働きますので、必ず地面に落ちてきます。一か八かのギャンブルプレーを選択するよりは地面に落ちてきたボールをコントロールして(弾ませないようにして)、次のプレーを選択するほうが確実です。きちんとコントロールすれば、その後のプレーがパスをするにしても、ドリブルを始めるにしても、シュートをするにしてもずっと楽に、しかも確実にできるはずで

自分の足と地面とで三角形を作って、そこにボールをはさみ、バウンドをさせない感覚を身に付けましょう。

【目の前の壁は崩せない！】

ドリブルを始めると目の前に相手が立ち塞がります。身体の大小に関係なく、ドリブルを止めようとしてくる相手に対して、ボールを思い切り蹴りつけるプレーがあります。もしかしたら相手の体ごとボールをゴールに叩き込むことができると考えているのでしょうか？それとも少しでも前に進みたい気持ちが力づくのプレーを選択させるのでしょうか？ところが悲しいかな、このケースもほとんどの場合、自分の意図したようにボールは動いてはくれません。むしろ相手の体にボールが当たり、自分の背後に跳ね返り、意図とはまったく正反対の結果になることが多いのです。

目の前に相手がいるときには、闇雲にボールを蹴らずに、相手をかわしてから(よけてから)次のプレーに移りましょう。慌てて蹴ったり、相手にぶつかったりする必要はありません。力づくで相手の体ごとボールを蹴っ飛ばすキック力や体ごと相手をぶちかますパワーを身につける練習は積んでいませんが、ボールを奪われないようにする術は身につけているはずですから、自信を持って目の前に相手に対峙しましょう。

【急がば回れ！】

そして、前に進めないと判断したときには、ボールを横に動かすことです(バックパスはもう少ししてから考えさせます)。所謂団子状態になってボールを突っつき

あってもボールが動かないことはもう十分に理解できているはずですが、考え方をちょっと変えて少し遠回りになるかもしれませんが、密集地域を避けて、広い場所(反対のサイド)へボールを動かすことです。このときに、ドリブルよりもパスのほうがボールは速く動くということも考えてほしい所です。

幸いにも、かながわクラブの子どもたちは頭を使う習慣は少なからずあるようですから、指導者の大きな声によって条件反射のようにプレーをするということがありません。考えるスピードを速めて冷静にプレーを選択しましょう。

【相手の得意技を封じる！】

10月31日の第2試合のことを思い出してください。相手に自由に「蹴らせない」という単純なことを実践するだけで見違えるような試合ができたはずですが、小学生の年代で簡単に勝つ方法としては、強くボールを蹴り、速く走ることに徹するということがあります。ただ、筋力のあまりない小学生年代ですから、強いボールを蹴ろうとすれば相手の蹴ったボールをダイレクトで蹴りかえしたり、体中に力を込めて無理なフォームでボールを蹴ったりする必要があります。しかし、こうした一か八かのプレーと無理な体勢のプレーとで勢いをつけて相手のゴールに殺到すれば、意外に簡単に得点が奪えるのです。

ただし、その代償として失うものはあまりにも大きすぎます。一輪車に乗る練習を大人が始めてもなかなか乗れるようにはなりません、子どもはあつという間に乗れるようになります。筋力ではなく平衡感覚をはじめとする感覚機能が大切なのです。外国語の習得についても同様です。子どものほうが速く覚えてしまいます。理論ではなくやはり感覚、言い換えると神経の問題なのです。何度も言いますが、小学生低学年から中学年にかけては神経系の発達が目覚ましい時期です。ボールに数多く触れてボールを扱う感覚を身につけなければならないこの時期に、ほとんどボールとの接点を持たない練習(強くボールを蹴ったり、速く走ったりという練習)に明け暮れているとボール扱いが上手にできなくなるのは明白です。

【自分たちの得意技で勝負！】

相手の得意技を封じるとともに自分たちの得意技で勝負することができれば、おのずと結果はついてきます。普段練習していることが自分たちの得意技なのです。得意といえるほど自信が持てないなどと謙遜することはありません。それなりの技術は身につけていますので、気持ちで負けずに、自分たちの最大限のパフォーマンスを発揮してください。(佐藤 敏明)

小2

【国チビ終了】

初めての公式戦である国ちびが終了いたしました。結果は6試合で勝点9の7チーム中3位になりました。低学年では個人技術を優先(簡単に言えばドリブル優先)する、かながわクラブとしては上々の結果だと思います。

保護者の方々の応援も暖かく、選手達の力となったに違いありません。今後も暖かく見守って頂けたら幸いです。

さて、大会を通して、パスを繋いでくるチーム、足の速い選手が多いチームには得点という結果は出ませんでした。試合を重ねるごとによくなっていった点が多かったと思います。3日間とも力が発揮できなかった選手、日に日に力を発揮した選手等、個々にはいろいろあった大会だったかもしれませんが、大会終了後の練習を見ると選手達の顔つき、取組む姿勢等は一回り成長したと感じられました。これからも、大好きなサッカーが上手になりたい！！と言う気持ちを忘れずにいてほしいと思います。

【サッカーとは】

最近、先日も紹介した元かながわクラブトップチームの館選手との交流後、タイプロサッカーリーグで活躍する日本人選手のブログをよく見ます。その中で元ガンバ大阪の木場選手のブログに書いてあったものを紹介します。木場選手は元Jリーガーで、今のように多くの日本人がタイリーグで活躍する前からタイにわたりプロ選手として活躍し、そのチームのキャプテンまで努め、タイリーグ在籍日本人選手のパイオニアの様な選手です。その木場選

手は今年タイリーグ在籍を最後に現役を引退し、最後にブログで以下のようにコメントしております。

「人には、それぞれの人生があり、さまざまな道があります。僕は、サッカーという一つのスポーツを通じて、自分が進んで行く、人生における、大切な事を教わってきました。全ての要素が、このサッカーには詰まっています、本当にたくさんの事を勉強させてもらってきました。僕にとって、サッカーとは、「人生そのもの」と言っても過言ではありません。～中略～

僕が、選手を卒業するにあたって、たくさんの人から、色々な声をもらい、正直、周りの反応に驚いている自分がいました。うまく言葉では表現出来ませんが、自分が好きで、続けてきた事に対して、たくさんの人達に、賛同してもらえた事。そして、人に影響を与える事ができた事。僕自身、そういう感覚がなかったもので、嬉しい気持ちと、少し複雑な気持ちもありました。一つの事を、一生懸命頑張る事、周りの人や、応援してもらってきた人達に、何かを伝える事が、できたのかも知れません。でも、何で僕がみなさんにとって、そんな存在になったのかなと考えた時、少し複雑な気持ちがありました。逆に、そう言うみなさんが、僕にとっては大切に、本当に大事な存在だったからです。本当に、心から感謝の言葉しかありません。」

このように、やはりサッカーにはいろいろな要素が詰まっていると思います。これからサッカーをやっていく上で、感謝の気持ちを忘れずに、サッカーをツールとして、楽しいこと、嬉しいこと、悲しいこと、辛いこと、いろいろなことを学んでいってほしいと思います。

【技術】

今後の練習ではやはり技術の向上目指して生きていきたいです。『止める』『運ぶ』『蹴る』を重視していきます。ただ、この3つを分断して磨いていっても、いざ試合で使えるかは疑問です。ですので、3つを繋げることが出来るのが本当の技術だと考えます。

『蹴る』ために『止める』には？

『運び』ながら『蹴る』には？

『止める』を『運ぶ』の一步目にするには？

等等。

試合の中で出来るように意識した練習をしていきたいと思います。

(益子 伸孝)

幼児・小1

【サッカーを通して考える力をどう育てるか】

池上正さん(NPO 法人I・K・O 市原アカデミー代表)のインタビュー記事を11月1日付けの神奈川新聞で読んだ。

『ある幼稚園でのこと。2列に並んでいた子供たちが「ピーツ」という先生の笛でさっと4列に並んだ。先生は「うちの子すごいでしょう」と得意げだ。そこで私が笛を吹き、「3列に並んでください」と声を掛けた。そして子供達はその場に固まってしまい動けない。訓練している4列はできるが、やっていない3列と言われると途端にできないのだ。気がつくのと、どの子も先生の顔をじっと見て指示を待っている。

サッカーでも似たようなことがある。「右へパスだ」「そこでシュート」。試合中、大声で指示するコーチの姿はおなじみだろう。失敗したり、思うようにできなかったとき、すぐにベンチのコーチの顔色をうかがう子供のなんと多いことか。

サッカーに限らず、実戦では練習したような場面はほとんどない。言われた通りのことしかできない子が対応できないのは当たり前だ。

状況の変化に対応するには、子供自身が自分の頭で考え、判断しなければならない。なのに何から何まで世話を焼いて子供に考える余裕を与えないのでは、伸びようとする芽をわざわざ摘んでいるようなものだ。

小学校の低学年の頃には喜んでグラウンドに飛び出した子供が、学年が上がるとだんだんぐずぐずするようになる。やらされているサッカーでは楽しいはずもないからだ。せっかくの才能ある子供がやめていく。指導の厳しいことで知られるコーチ指導者のところでそんなケースが多い。

(中略)

大事なものは、子供が本当に楽しんでやっているかどうかなのだ。楽しければ子供は真剣になるし、自分で工夫する。それがうまくいけば、ますます楽しくなる。仲間と考えたこ

とが成功すれば最高だ。失敗したら別のやり方でやればいいという感覚も身につく。面白いと思えば、当然勝ち負けにもこだわらぬ。負ければ何がまずかったのか、あれこれ言わなくても自分達で考える。

子供が自分で考えられるような環境を整えるのが大人の仕事だ。

日本では、練習でも、試合でもコーチの指示通りできなかつたりすると、責められたり、負けようものなら、罰としてランニングが待っていることもある。これでは、心が弾まなくなるのも当然だ。試合で負けて落ち込む子供を励ますどころか、何をやっているのかと責め立てる親までいる。

サッカーはチームスポーツだ。多くの人と触れ合い、自ら動くことを通して人間として成長できるのがサッカーというスポーツだ。それを多くの大人に分かって欲しい。』

10月31日に、港北小学校の地域ふれあい教室で、初の懇親会が開かれました。保護者、兄弟も含めて50名以上の方に出席いただきました。幹事の菅谷さんをはじめ、多くの方々にお手伝いいただき、ありがとうございました。

お父さん、お母さんに続き、子供たち全員が自己紹介をしてくれましたが、大勢の人を前にして、グラウンドで見せる活発さはどこへやら。緊張と恥ずかしさで、どの子もお父さん、お母さんの顔を見ながらのコメントでした。

自分の考えを、自信をもって相手に伝える。このことは、サッカーに限らず、とても大切なことです。もちろん、それには、責任ある行動が伴わなければなりません。『できないからといって途中で投げ出さない』『自分でやれることは自分でやる』『指示されなくとも自分から行動する』。これらがあって、仲間からの理解・協力・サポートも得ることが出来ます。

サッカーはチームスポーツですが、そのチームを構成しているのは、それぞれの『個』です。それぞれの『個』のレベルが上がることは、当然のことながらチーム力が向上します。個々のレベルをアップさせるには、自らが考え、瞬時に判断する力が求められます。それには、自分で判断する経験を重ねるしかありません。

30名近くの子供たちが、『考える力』を身

につけてくれるように、今後もスタッフ一丸となってさらに取り組んで参りますので、保護者の皆様には、子供たちの様子を是非ともグラウンドレベルでご覧になってください。(浜野・豊田・近江)

Papas

【2010年度県シニアリーグ2部結果報告】

4勝4敗3分(12チーム中6位) 14 得点
16 失点

得点者:小川(6点)、上田(5点)、田代、篠原、横塚(各1点)

1試合あたりの参加人数:14.1(64.0%)

1試合あたりの得点:1.27

1試合あたりの失点:1.45

全試合参加:上田、横塚、中山(以下参加試合から)青木

【総括】

参加率は、2009年シーズンに比べ0.7人程度低くなりましたが、多くの方が日程調整をいただきまして、本当に感謝です。山口さん、松村さんの休部、青木さんの復帰、怪我人等がありましたが、なんとか乗り切った感じです。2点差以上でもう1勝していれば3位に入り、1部との入れ替え戦出場が可能だったことを後から気付いたことが、残念です。

得点は3.08から1.27と激減。失点は1.00から1.45と大きく増えてしまいました。やはり、2部のチームの攻守のレベルの違いがありました。

特に、最後の4試合は上位チームとは言え、4連敗はいただけません。

シーズン前に、1)速い判断、2)声の重要性、3)我慢と忍耐、4)玉際や体の使い方、5)味方への信頼をテーマにしていました。

さらに、上位チームとの対戦になるとよりサッカーの基本である『止める』、『蹴る』を追求する必要性を感じました。プレッシャーがきつい中でも、いかにきちんと基本動作を行えるかで差が出てしまいます。

チャンスがいつの間にかピンチになってしまうことを、試合中に感じた方も多かったと思います。

とはいえサッカーは、ミスが前提のスポー

ツです。きちんと止められない時もありますし、きちんと蹴れる(パス含む)ときも少ないと思います。そのミスの後が重要なスポーツです。

頭を切り替え、全員でサポートしていくようにしましょう。

12月5日からは、県議長杯(トーナメント)が始まります。

来年につながるよう、Compの目指す『勝負』サッカーを意識して、楽しくサッカーを行いましょう。基本に忠実に、体の正面でプレーできるよう、そして事前に周りを確認することで、次のプレーの選択肢を増やすよういつも頭は休めないようにしましょう。よろしくお祈りします。(中山 泰宏)

ヨーガ

【iPod touch】

買ってしまったのです iPod touch を！少し前に内田コーチが長年の docomo から携帯の会社を変えました。iPhone のためにです。ちょっと触らせてもらったのですが、なんか面白そう…。私のヨーガのクラスに参加してくれている高校の同級生の B 君も、なんだか楽しそうに iPhone を見せてくれます。でも、携帯の会社は変えたくない…。そこで、新しく出た iPod を買ってみることにしたのです。正直いって機械、特にパソコン関係は苦手なのですが、iPod は形がかわいくて、持っているのが楽しくなります。白くて手触りの良いカバーをつけて、キラキラのストラップもつけました。きゃ～！さらに、かわいい！在庫がなくて予約を入れてから 1 週間ほどかかりました。手に入れたその日から、時間があると iPod をあれこれやっています。無線 LAN を受信できるようになるのに四苦八苦、さらにメールを受信できるようになるのに数日かかり(どうも私の使っていたドメインとの相性が悪い模様。サービスセンターに聞いても、回答ははっきりしませんでした。)ああでもない、こうでもないとやっているうちに、やっと開通!お陰で寝不足です。でも、なんだか達成感があります。持ってみてわかったのですが、私がヨーガを担当しているクラブのスタジオも、音響設備に iPod を使うことができる場所が増えていきます。

待以上の便利さとかかわいさに、少しうれし毎日です。(伊藤 玲子)

たわごと 理事長の戯言

【木登り】

自宅の植木が伸び放題で、公道にはみ出ただけじゃなく電線にかかるようになってきました。さすがにこれでは多くの方に迷惑をかけるに違いないと思い、梯子を持ち出しました。しかし、予想以上に背が高く届きません。70 才過ぎの母親が木に登り、のこぎりで枝を切りはじめました。さすがに負けるわけにはいきません。いや危なくて見ていられません。そっちがのこぎりなら、こっちはチェーンソーです。しかも、もっと上まで登ります。しかし、チェーンソーは両手でないとうまく使えません。それでも、意地でも片手で枝を切り落とします。木から降りた母親が、その切り落とされた枝をすぐに公道から脇にとけます。へいへいホー！と叫びながらやりました。右腕に力が入らなくなりました。危なく左腕を切り落としそうになりました。疲れてきて、切った枝がどこに落ちるのかを考えるのが面倒になりました。一つは私の頭に切り口からゴーン！と落ちました。一つは人の家のフェンスに切り口から落ちてそれを破壊してしまいました。母親が謝りに行きました(たぶん)。きっと弁償でしょう。でも、ずいぶんすっきりしました。職人さんと呼んだほうが安かったかもしれません

(内田 佳彦)

